

単元名 読書に親しむ 研究の現場によこそ

配当時間 1時間

単元の目標 (1) 教材文を通して研究者の考え方や探究心に触れ、研究に関わるさまざまな本を読むことができる。
 (2) 教材文を自分の知識や経験と結び付けて読み、感想を伝え合うことができる。
 (3) 進んで、本や文章などには、さまざまな立場や考え方が書かれていることを知り、今までの学習を生かして感想を伝え合おうとする。

標準的な展開例

11210223_001

【準備等】国語指導CD、再生機

学 習 活 動	留 意 事 項 など
1 教材文を通読し、さまざまな読書活動を知る。 ○ 本時の学習課題をつかむ。 ★ さまざまな読書活動を知ろう。 ○ 「研究の現場によこそ」を通読する。 ○ 「クモの糸でバイオリン」を通読する。 ○ 感想を伝え合う。 ・ 教材文を自分の知識や経験と結び付けて読み、初めて知ったこと、興味をもったこと、疑問に思ったことなどを伝え合う。 ○ 「本の世界を広げよう」(p. 191)を参考に、今後読みたい本を考える。	・ 二次元コードで、教科書に掲載されている文章の続きや、他の研究者のインタビュー記事を読めることを伝え、読書を促すとよい。 ・ 実物の本を提示したり、学校図書館に置いたりすることで、生徒が本を手に取りやすくしたい。 【評】感想を伝え合う活動を通して、「思考・判断・表現」を評価する。

【備 考】

人々は、時に過酷な状況を生きなければならないことがある。そして、その中で、苦しみを背負いながらも、自らの役割を見いだすなどして強く生きる人々がいる。読書を通して、そうした人々の生きる姿に触れさせ、自らの生き方と関わらせながら考えさせたい。

また、中学2年生という多感な時期には、種々の読み物に触れさせることが大切である。テーマや作家を決めて読み深めたり、ジャンルを決めて読み進めたり、場合によっては本とは、あるいは読書とは何かを考えさせる読み物にも触れさせたい。

文章を読んで考えたことをグループで伝え合う活動を通して、友達の考えに対して質問や共感、意見などを交流し、改めて自分の考えを見つめさせたい。その交流の中から、興味や関心をもったことをこれからの生活や読書活動に生かしていったほしい。